

A. 日時 2011 年 2 月 21 日（火）17 時 00 分～19 時 10 分

B. 場所 建築学会会議室

C. 出席者 岩本毅，大島拓也，岡野利行，坂本慎一，佐久間哲哉，田端 淳，中澤真司，濱田幸雄，平松友孝，平光厚雄，宮島 徹，吉村純一，横山 栄（敬称略）
欠席者 安藤 啓，井上勝夫，羽入敏樹（敬称略）

D. 提出資料

2011 年度第 5 回音環境運営委員会議事次第

No. 5-0 2011 年度第 4 回音環境運営委員会議事録（案）

No. 5-1 企画広報WG「（仮称）集合住宅騒音問題対応プロジェクト」

E. 審議事項

1. 前回議事録の確認

- ・ P1 の下から 4 行目：“10 件中音環境から 3 件・・・”の「音環境」を「環境工学分野」に訂正。
- ・ P2 の 8 行目：3/1, 2 のシンポジウムのタイトルを「東日本大震災からの教訓，これからの新しい国づくり」に，3/12 のシンポジウムタイトルを「東日本大震災に学ぶこれからの環境工学」に訂正する。
- ・ P3 の下から 9 行目：“書籍は基礎編（学生向け）・・・”の「書籍は」を削除。
- ・ P4 の 3 行目：「次回の運営委員会までには目次案程度・・・」を「住まい方マニュアルについては次回の運営委員会までには目次案程度・・・」に訂正。

2. 環境工学本委員会の報告

報告事項

(1) 学術推進委員会報告

- ・ 2011 年度大会（関東）概要報告：環境工学部門の欠席率は 3.1%で例年と同様であった。
- ・ AIJ デジタルライブラリー大会研究集会資料頒布のアンケート結果：大会開催の 1 年後に会員限定で無料提供とする。
- ・ 2012 年度調査研究委員会予算配分：環境工学分野全体としては 3.76%減の¥12,444,000-，そのうち音環境運営委員会への配分率は 8.7%で¥624,000 と昨年度より¥73,000-減となった。小委員会への配分は後日メール審議とするので，今年の予算で不都合や希望があれば濱田委員長に連絡すること。予算の用途は旅費（民間企業を除く）とコピー代に限定されるので，委員名簿から想定して委員長と幹事で案の作成を進める。
- ・ 竹中育英会研究助成：募集があるので，積極的に応募をお願いしたい。
- ・ 国際交流振興基金（上期）の援助申請：予定がある方は上期に応募をお願いしたい。下期の援助は

上期配分により残金が生じた場合のみおこなわれる。

- ・ 2012 年度大会のプロ編について：編成会議委員の選任にあたって旅費経費の節減にご協力願いたい。プロ編の方針は例年と同じ。研究協議会は「エネルギーとライフスタイルのあり方」、研究懇談会は「節電から考えるこれからの建築」の案が挙げられている。
- ・ 2009～2011 年度委員会活動報告会：3/21 に実施予定。昨年度が中止になったので、今年度に 3 年分となる。
- ・ 大会梗概集：冊子版は廃止となる。図書館等へは冊子版提供を継続するが個人向けは継続しない。

(2) 東日本大震災関連

- ・ 3/1～3/2 シンポジウム「東日本大震災からの教訓、これからの新しい国づくり」は応募多数で満席。USTREAM で配信がある予定。
- ・ 3/12 シンポジウム「東日本大震災に学ぶこれからの環境工学」は席に余裕があるので、申し込みが未だの方々もご参加ください。
- ・ 二次提言に向けて：作業分担と提言のイメージを議論した。環境工学としては、生活様式、省エネルギー設計、代替エネルギー設計、放射線対応策、などの常置委員会を重点担当する。音環境としては今のところ対応はないが、今後出てくるかもしれない。

審議事項

- 1) 各種委員会委員推薦：音環境からは論文集委員会の委員（佐久間委員の後任）を推薦する必要がある。音と電磁・振動が担当になる。委員長が案をつくって後日メール審議とする。
- 2) 大会のOS申し込み・審査：3/2 が締切。予定として 6 件+1 件？の見込み。担当する建築音響測定法小委員会（宮島主査）で審査のうえ決定する。大会全体の懇親会は初日の 19 時から名鉄グランドホテルに決定した。
- 3) WG 設置申請：環境工学本委員会直轄で、既存の住宅建築環境WGと都市環境WGに加えて新たに放射線物質汚染対策WGが加わり、震災関係のWGが 3 つになる。
- 4) 2012 年度予算配分は上記報告事項の通り。
- 4) 音響数値解析小委員会（坂本主査）から提出されていたチュートリアル企画は承認された。
- 5) 企画刊行委員会 AIJES の環境基準総則の改定：下記の審議事項の通り。
- 6) 今年度予算執行状況：2/19 現在で音環境運営委員内全体で 37%の状況。2～3 月の旅費予定を至急濱田委員長に連絡のこと。
- 7) 環境工学者名簿：作成が遅れており 2012 年早期に出す予定。年度変わり等で変更があれば連絡頂きたいと依頼があった。
- 8) 2012 年度の環境工学本委員会の日程が決定したので濱田委員長の予定を確認したうえで音環境運営委員会の開催日を決定したい。参考までに、本委員会の予定は 5/23（水）、9/20（木）、11/6（火）、2/19（火）の 4 回である。
- 9) 「法に係わる環境・設備の課題と展望」に対するご意見のお願い：学会の HP にアンケート用紙があるので、それに答えて頂ければありがたい。

3. 審議事項

- (1) AIJES 総則の改定について

外部査読の位置づけ、小改定の手続き追加、出版後はシンポジウムではなく講習会開催とする改定案が企画刊行委員会から出されており、意見を求められている。

外部査読は運営委員会の判断と明記される。特に不都合はないと思われる。

小改定は文言や数値の差し替え程度という説明であった。小改定の手続きが必要という意見は音環境から発案したものである。小改定に当たるとの判断を運営委員会がおこなうことになっているので、よいのではないか。

出版後に意見を聞く場であるシンポジウムを開くのはおかしい、定まった内容を説明するのは執筆者でなくてもよい、という2つの理由から講習会の開催とされている。講習会の場合、講義料を支出することが決められているなどから、参加費が高くなるという意見があった。必ずしも義務ではないという意見も出た。AIJESの制定の経緯に講習会収入を得るという考え方もあり、できれば講習会の実施については現状の規定を継続したい意向が説明された。

AIJESではないが、数値解析の出版物の場合は講習会が赤字になるので止める方向の指導が事務局からあった。AIJESの理念としては価値ある情報の発信が重要であって必ずしも儲けることが目的ではない。運営委員会で開催の必要性を判断し、開催しないという選択肢も設けるよう提案したい。

(2) 住まい方マニュアルの今後について（企画広報WG：峯村主査）

概要説明（峯村主査）：

- ・「（仮称）集合住宅騒音問題対応プロジェクト」と題して、住まい方マニュアル+αの方法について検討を進めている。購入者や入居者に、「建物に欠陥が無くても集住は自戸以外の音が聞こえるものだ」「住まい方に配慮が必要だ」という認識を持ってもらい、集住に住む覚悟を再認識してもらうことを目的とした企画である。「音はするものである」という言い方だけだと実際に欠陥などがあつた場合に問題となる点は注意が必要である。現状は、購入時に十分な情報が得られる状況にあるとはいえず、中立の学術団体が情報発信する意義はあると考えている。
- ・学会としては「事実を整理する」、「具体的な事例を示す」ことに徹し、善し悪しは示さない考えである。成果物のイメージ（案）として、情報Web、ガイドブック（DVD・ポスターなどを含む）、体験シミュレータの実施ガイド、などが考えられる。対象は、集住の購入者・管理組合などの素人とする。

審議：

- ・建築学会の中にある住まいづくり支援建築会議から新築住宅を選ぶときの音環境について解説されているがどういう位置づけになるか？⇒その内容だけで十分でないところがあると考えている。
- ・タイトルと内容がマッチしていないように感じる。中立の立場としてパンフレットなどに出てくる性能値の説明をするなどという情報発信は有意義だが、あなたはこれだけ迷惑をかけるんですよというニュアンスはどうか？シミュレータについては精度の問題が心配であり、単品生産のものに対して妥当なものができるのかという疑問も感じる。
- ・作成するには大変な作業となると思われるがどういう工程を予定しているか？まずはパンフレットのような紙情報をつくってから、他のものを考えていくのが良いのではないかと
- ・遮音性能規準の前提条件を理解して頂くことができる資料ができれば非常によいのではないかと
- ・ハウスメーカーでも性能を説明するパンフレットや床衝撃音のビデオなどを作っているが誤解を

招く場合がある。ビデオなどは正しく使われないと再生環境によって違った印象を与えてクレームとなる。もう1点はどの性能水準が適切かという判断を示せるかということである。LH-55がこういう音だと体験しても聞こえるということで終わってしまう。それを住まい方でどれだけ改善できるかという学習に繋げることができれば、学校などの教育にも使えるかもしれない。

- ・ ご意見を峯村主査にお送りください。

4. 各小委員会・WGの活動報告

① 固体音小委員会（中澤主査）

12/26, 1/30 の2回開催。

濱田主査から幼稚園、小学校の衝撃力計測結果をご紹介いただき、意見交換。その他、シンポジウムの準備をおこなった。次回は3/5のシンポジウムとなる。現時点で41名申込みあるが、100名で計画を立てているので是非参加のアナウンスをお願いしたい。

鉄道固体音測定法検討WG：音響専門誌や学会等の文献調査で固体音の測定法について検討している。

② 集合住宅の遮音性能評価水準検討小委員会（岩本主査）

12/8, 2/20 の2回開催。文献調査をほぼ終え、委員から収集した室内騒音レベルの測定値をまとめている。集まったデータの物件が限られたデベロッパーのものなので、巾を広げるため委員所属会社の6月竣工の物件で実際に生活音等を測定することを検討中。

③ 建築物音響測定法小委員会（宮島主査）

前回の運営委員会でお願ひしたフランキングに関するアンケートを集計している。大会のOSは、6件を予定しており、次回3/2の小委員会で審査をおこなう。

④ 室内音響小委員会（羽入主査：横山幹事代読）

12/8に第3回を開催、2/29に第4回を予定。設計事例集の検討を進めている。

音響指標測定研究WG：第6回を12/12、第7回を1/27に開催。第8回を3/月上旬に予定。指標ベンチマークの課題を設定して委員各自が解析中。これまでの成果と今後の展望を建築学会OS測定法で発表予定。来年度開催予定のシンポジウムを今年の秋以降か年内に企画している。

スピーチプライバシー研究WG：第3回を11/16、第4回を1/26に開催。3/16に第5回を予定。スピーチプライバシーの評価・設計・制御方法について各委員から情報提供し、最近の研究状況を委員会の中で紹介している。来年度開催予定のシンポジウムを企画中で、年末か13年度末あたりで計画している。

⑤ 音響数値解析小委員会（坂本主査）

12/26開催。メール審議で受理されたチュートリアルの内容について検討した。1回目は5月で基礎編、2回目は7月で応用編とする。内容と担当者は今後検討したい。場所は建築会館のホールを考えていたが5月も7月も予約が取れず、東大生研の100人の会議室を予定している。学生や若い技術者にぜひ聞いて頂きたいので、周知にご協力をお願いしたい。

音響数値解析ソフトウェア調査開発WG（大嶋主査）：音響数値シミュレーションプログラミングガイドを執筆中、内容は固まって査読をする段階である。

⑥ 音環境規準検討小委員会（平松主査）

12/7, 第6回委員会開催. 11/29, 12/27, 3/1 に遮音性能基準WGと集合住宅遮音設計指針WGの合同WGを開催し, 3月末のWD完成を目指している.

3月末でWGが廃止され, 企画刊行運営委員会の中に2つの小委員会を設置して作業を移行する. 遮音性能基準は平松主査, 遮音設計指針は田端主査とする. 音環境運営委員会の音環境規準検討小委員会は継続し, 4月以降は古賀主査に交代する.

⑦ 企画・広報WG (峯村主査)

1/31 に第5回WGを開催し, 住まい方マニュアルの報告内容をまとめた. 今後活動内容を絞り込む予定. 文献調査・整理は量が多いため, 3月末をめどにしている. 次回は3/29を予定.

⑧ その他: 特になし

5. 他学会・研究会の予定

特になし

6. その他

特になし

7. 次回予定

後日メールで連絡する.

以上